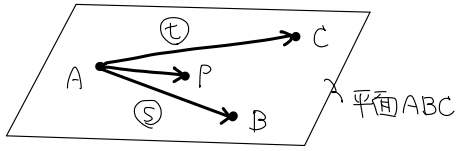


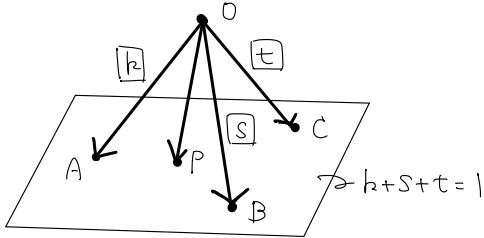
ベクトルの立式 (空間ベクトル)

① Pが平面ABC上



Pが平面ABC上のとき、共面条件
(4点A, B, C, Pが同一平面上)

$$\vec{AP} = s\vec{AB} + t\vec{AC} \quad \dots \textcircled{1} \text{と表せる。}$$



①において、始点をOにすると。

$$\vec{OP} - \vec{OA} = s(\vec{OB} - \vec{OA}) + t(\vec{OC} - \vec{OA})$$

$$\vec{OP} = (1-s-t)\vec{OA} + s\vec{OB} + t\vec{OC} \quad \dots \textcircled{2}$$

②について。

- $s \geq 0, t \geq 0, s+t \leq 1$ のとき、
- Pは△ABCの内部および周上にあり、
- そうでないとき、△ABCの外部にある。

②において、 $1-s-t=k$ とすると。

$$\vec{OP} = k\vec{OA} + s\vec{OB} + t\vec{OC} \quad (k+s+t=1)$$

★ $k+s+t=1$ を共面条件という

★ 共面条件を利用するときは、

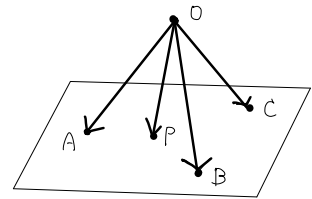
1. 「始点がそろっている」
 2. 「終点4点、が同一平面上にある」
- を正確にすること!!

コメント

上の内容をしっかり理解して、自分の好きな方法で、ベクトルの立式の仕方を確立しましょう。
 特に、マーク式の試験では、立式が誘導でついたりするので、理解して、誘導にのめるようにしましょう。
 次の問題でいろいろな立式方法を見ていこう。

問題

4点O, A, B, Cは同一平面上にないものとする。点Pが平面ABC上にあるとき、 $\vec{OP} = s\vec{OA} + t\vec{OB} + u\vec{OC}$ と適当な実数を用いて表せ。



(この1) 根本からスタート
 Pは平面ABC上より、
 $\vec{AP} = s\vec{AB} + t\vec{AC}$ とおける。
 よって、
 $\vec{OP} - \vec{OA} = s(\vec{OB} - \vec{OA}) + t(\vec{OC} - \vec{OA})$
 $\therefore \vec{OP} = (1-s-t)\vec{OA} + s\vec{OB} + t\vec{OC}$

(この2) つなける
 Pは平面ABC上より、
 $\vec{OP} = \vec{OA} + s\vec{AB} + t\vec{AC}$ とおける。
 よって、
 $\vec{OP} = \vec{OA} + s(\vec{OB} - \vec{OA}) + t(\vec{OC} - \vec{OA})$
 $\therefore \vec{OP} = (1-s-t)\vec{OA} + s\vec{OB} + t\vec{OC}$

(この3) 常識として利用
 Pは平面ABC上より、
 $\vec{OP} = (1-s-t)\vec{OA} + s\vec{OB} + t\vec{OC}$ とおける。

(この4) 共面条件を利用
 Pは平面ABC上より、
 $\vec{OP} = s\vec{OA} + t\vec{OB} + u\vec{OC}$
 ($s+t+u=1$) とおける。

解説

(この1)~(この4)の結果の式は全て、
 $\vec{OP} = (1-s-t)\vec{OA} + s\vec{OB} + t\vec{OC}$
 であり、同じになっている。
 ((この4)もsを消去すれば、使っている文字が異なるだけで、同じである)